

♪ 2018年度 **poco a poco** ♪

Nr. 13 2018年10月25日(木) 文責: プファイル・辰巳

## みんなの顔が輝いて見えた！

### ・・・学校祭

秋休みが終わりました。みなさん、学校祭までの疲れはすっかりとれましたか。準備から本番、そして片づけまで、みんなで協力して作りあげた学校祭「結輝」でした。保護者のみなさまも、ご協力ありがとうございました。

さて、秋休み明けからは後期時間割になり、2学期も後半戦となります。スポーツの秋、食欲の秋、読書の秋、芸術の秋・・・そして勉強の秋です。間もなく冬時間も始まり、夜の時間が長くなるこの時期、腰を据えて学習に取り組みたいものです。クリスマスまでの約2か月間、充実した学校生活になるよう、気持ちを新たにがんばりましょう！



## 11月1日(木)は音楽鑑賞会！！

来週の木曜日、11時から体育館にて、全校音楽鑑賞会を予定しています。ジャズ風にアレンジされた曲をみんなで聴きます。ピアノだけではなく、サクソにコントラバス、そしてドラムスも交えての楽しい演奏会です！

## Vorschau (予告)

音楽鑑賞会の後、11月5日(月)は、中学部2年生とパイプオルガンの見学に出かけます。10日(土)は土曜参観日ですね。

その翌週、2学期ミニコンサートの申し込み受け付けを始めようと計画しています。本番は12月6日(木)です。出演を考えている方は、そろそろ準備を始めてくださいね！

## <音楽こぼれ話

「ジャズってなあに？」～音楽鑑賞会に向けて～ >

今年の音楽鑑賞会には、ジャズのミュージシャン4名をお呼びしています。ピアノ、サクソ、コントラバスにドラムスが加わって、楽しい演奏をしてくださる予定です。

ところで、ジャズ音楽とはどういう音楽なのでしょう。

ジャズは20世紀の初頭といえますから、今から100年ほど前に、アメリカ合衆国の南部、ニューオーリンズという町で誕生しました。アフリカ大陸からアメリカに渡った黒人音楽と欧米諸国の音楽が融合されたポピュラー音楽です。厳密な定義があるわけではありませんが、特徴的な演奏法があります。なので、どんな音楽も「ジャズ風」にアレンジして演奏することができます。

では、その特徴的な演奏法はどんなものなのでしょうか。

一つ目の大きな特徴は、躍動的なリズムです。シンコペーションなどのリズムをふんだんに使用し、オフビート(いわゆる後打ち)になります。

二つ目は「即興演奏やアドリブ」です。楽譜にしばられることなく、演奏家はその日の気分で自由に自己表現します。基本のテーマから発展して、同じ演奏家による同じ曲であっても、聴くたびに新鮮に聴こえるという魅力がジャズにはあります。ただし、楽譜にしばられることはないとは言え、合奏しているわけですから、みんなが勝手に演奏しているわけではなく、もちろんそこにはルールが存在します。オリジナリティを発揮してアドリブ演奏をするのはソロパートを受け持つ人で、伴奏は原曲の基本をなぞっていきます。

「ブルーノート」と呼ばれるジャズ特有の音も特徴的です。西洋クラシック音楽で使用されるハーモニーを少し変形させることで、ジャズ独特の響きを出すことができます。

その他にも「コール&レスポンス」や「ポリリズム」など、いろいろありますが、難しいお話はさておき、音楽鑑賞会で実際にジャズ音楽を聴いていただいて、その特徴を耳でとらえ、身体で感じて欲しいと思います。そして、普段耳にしている曲が、ジャズ風にアレンジされるとこんな風に聴こえるのか、という体験をしてほしいと思っています。演奏家はドイツの方々ですが、日本人の子どもたちにもなじみのある曲を、みなさんのためにアレンジして演奏して下さる予定です。もちろん、スタンダードと呼ばれるジャズの名曲も演奏して下さいます。みなさん、どうぞお楽しみに！

